

令和3年度 社会教育委員会（第3回） 議事要旨

◇日 時

令和3年10月20日(水) 午後7時～午後9時

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室1

◇出席者

【委員】土屋委員長、大島副委員長、室伏委員、鈴木委員、小澤委員、
一之瀬委員、井出委員、中川委員、小田委員、志田委員
【事務局】大塚生涯学習課長、勝又主席主査

◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

1. 開 会 （事務局）

2. 委員長あいさつ

コロナの感染者が裾野市では出ていない。1か月遅れで社会教育委員会が開催できた。充実した会議になるようにしたい。

3. 報告事項

- ・各種委員会委員会の会議報告

特になし

- ・令和3年度全国社会教育委員連合表彰の被表彰者の決定について

土屋八重子委員長が表彰されることに決定した。全国社会教育研究大会石川大会の表彰式へ出席予定だったが、新型コロナウイルスにより県外の被表彰者は出席できなくなってしまったため、県社連で表彰式をどのように執り行うか検討する。

（協議事項は委員長が進行）

4. 協議事項

- ・「学校を核とした地域づくりのための環境整備」について
(1) 中間報告書作成に向けての研究計画について

今年度中間報告書を出したいと考えている。中間報告書作成に向けたタイムスケジュールを正副委員長と事務局で作成した。

次回第4回は全国の実践事例をもとにした話し合い、市民活動の集いは先進事例の情報収集、第5回で中間報告書の内容検討し、最終第6回で報告書をまとめる。

第4回の話し合いについては、今日の最後に資料を配るので次回までに各自準備してきてほしい。

→提示内容で進めることでした承。

(2) コミュニティ・スクール先行導入校における CS ディレクターの活動状況
について（裾野市教育委員会学校教育課 指導主事 小濱伸哉 様）

- ・先行導入校の学校運営協議会では、2 回目以降はそれぞれで内容を決めて取り組んでいる。
- ・CS ディレクター（CSD）が、CS だよりなどを作成、地区回覧して、活動状況の情報発信を行っている。
- ・CSD がスクールサポートスタッフを兼務している学校では、スクールサポートスタッフとして学校に常勤しているため、教員との相談がしやすいというメリットがあった。反面、一人では発想が限定される、活動に限界があるため複数人でやっていくほうが良いのではないかという声もあがった。
- ・来年度実施にあたっては、学校規模や地域性があるので、学校ごとに柔軟に対応していきたい。
- ・裾野市でも以前から地域学校協働本部（学校支援地域本部）を設置しているが、必ずしも上手くいっているとは言えない状況。コーディネーターの取り組みの仕方によって地域差がある。
- ・地域学校協働活動の内、「学校に対する多様な協力活動」については活発に行われている。しかし、それ以外については取り組めていないので他の地域学校協働活動にも取り組んでいく必要がある。
- ・「すそのん寺子屋」（「放課後子供教室」と「地域未来塾」の補助金を使っている）については、学校主体で行っているのが現状。これを地域で運営できるようになるのいいのではないか。東小で地域に呼びかけしてみたが上手くいかなかった。地域側の受け皿、コーディネートしてくれる人等地域側で育成していくことが必要。
- ・南小では、放課後子供教室のような取り組みを独自で行っている。場所は学校を使っているが、地域で運営している。
- ・CS をスタートとして、5 年、10 年かけて取り組んだことが「学校を核とした地域づくり」に繋がっていくのではないか。
（質疑応答）

○放課後子供教室の実施は土日でもいいのか。

→土日でも良い。

○南小の活動は市から予算が出ているのか。

→放課後子供教室の予算はない。自分たちで実施している。資金が十分ではないと思う。

○東小で呼びかけしたとのことだったが、その回覧を、自分はそういう意図に捉えなかった。教えてくれる人を探しているものだと思った。CS は始まって東地区はどのように呼びかけているのか。

→CSD が区長会に参加して情報発信をしている。これだけでもこれまでとは違うと思う。

○来年度から全校で始まるとのことだが、準備の状況は。

→各学校で、運営協議会委員や CSD を探したり等進めている。

○市民に PR しないと正しく伝わらないのでは。広報活動は考えているのか。

→呼んでもらえれば行って説明したいと思っている。方法論ばかりだとやらされ感がまん延してしまっていて続かないのではないか。説明ばかりも違うのかもしれない

ないと最近感じている。活動事例でも学校のクラブ活動を見てもらったということがあったが、そういう小さな楽しかったの地道な繰り返しで良いのではないかと思う。人と人とのつながりが、結果CSになっているような風でいいのではないかと思っている。

- 須山小中で、企業からお誘いいただき子どもたちが巣箱かけ体験をした。短い時間で学校側の負担も少なく、子どもたちはコツなどを教えてもらって勉強になったようだった。そういうことを地域から提案してもらえると良いなと思う。良い関係ができれば。
- 企業としても、何かやってみたいと思っているが何をしたいか分からない。事例を発信してもらえれば有難い。
- 各地区でいろいろなボランティアがいる。学校で特技を持つ人を登録制にしては。
- 学校で作るよりは地域でつくった方が良い。
東地区は団体長会議があり、そこで情報共有している。地域学校協働本部と学校運営協議会を同日に開催し、すぐに報告できるようにするなど工夫している。
- 須山地区は育成会が協力してくれて地域学校協働本部の主体となってくれることを希望している。
- 育成会が解散してしまった地区もある。団体有無も学校差や地域差がある。

(これからの方向性を考える)

- いきなり何かを始めるのは難しい。地域の人たちにCSを理解してもらい、気持ちが醸成されないと進めない。
- 今年度、市P連はすべての会合をZoomでおこなっているが、地域でどのような子供を育てたいかというビジョンを共有することが大事なのではないか。ビジョンを実現するために自分ができることはなにか考える。
- 自分は学習支援に関わっているが、ほかの支援の人たちとの接触することがない。CSルームを活用して、人が集まりコミュニケーションをとれる場があると良い。
- 学校側がお願いするばかりではなく、地域に出ていくことを考える。双方向で。
- 「個」の仲間を増やしていく。団体同士が協働するのではなく、「個」が仲間として増えていくような仕組みを。
- 子どもたちが地域の人を、「おじさん」ではなく「〇〇さん」と認識する仕掛けをする。
- 地域の人に話を聞くと、サポートしたい人はたくさんいるが中心になって動きたいという人はいない。その人をどうやって育成していくかが課題。

5. その他

- ・「社教情報」等の配布
- ・第2回東部社会教育関係者等研修会の申込みについて（10月22日期限）
開催日時：11月11日（木）（西伊豆町）
- ・社会教育基礎研修アンケートの提出について（11月30日期限）
- ・第4回会議の日程について
11月25日（木）19:00～ 生涯学習センター2階学習室2において開催

6. 閉 会 (大島副委員長)